

1月4日



小学生らが和服姿で真剣勝負 五色百人一首

和装に親しむきっかけにと、着物やはかま姿でかるた取りをする恒例の「五色百人一首大会」が八幡コミュニティセンターで開催されました。

五色百人一首は、小倉百人一首を子どもでも気軽に親しめるようにと考案されたもので、5色（1色20組）に色分けしたもので、子どもたちは色鮮やかな着物やはかまを着付けしてもらった後、1対1に向かい合って正座し、上の句が読み上げられると「はいっ」と声を出して次々と札を取りあっていました。

1月3日



安土町内野で 魔除け・五穀豊穡を 願い勸請縄を設置

安土町^{うちの}内野集落で、新春の伝統行事である^{かんじん}勸請縄の設置が行われました。勸請縄は、農村集落内に疫病や災いが入り込むのを防ぐ魔除けや五穀豊穡などを願って、集落の入り口の道路に横切る形で渡しかけられるなどして設置されるもの。この日は、同集落の八幡神社の氏子や指導役ら約15人が神社の境内で、稲わらで約14メートルの勸請縄を結び上げたあと、神社近くの鳥居型のアーチまで運んで縄を渡し掛け、「天下泰平、村中安全、五穀豊穡」と書かれた絵馬型の木札と杉の葉で作った輪を組み合わせた輪を吊るし、さらに、その左右に端に杉の葉をつけた12本の縄を吊るし、約3時間かけて完成させました。

1月6日



無病息災を祈願し、 冷水かぶり疾走 「白王の水行」

奈良大峰山の行者講の修行として、毎年この日に行われている新春恒例の伝統行事「白王^{みぎぎょう}の水行」が白王町で行われました。

上半身裸で腰みの姿にわらじを履き、首からは大数珠をかけた行者役の2人が、各戸の軒下に置かれたナンテンの入ったバケツの冷水を次々と頭からかぶりながら、町内約700メートルを疾走しました。

12月21日



「ばあちゃん」いつもありがとう 「スエばあちゃん食堂」の設立3周年を祝う

末広町の子ども食堂「スエばあちゃん食堂」が設立3周年を迎え、真宗大谷派^{しょうみょうし}正明寺で行われた記念イベントに町内の小中学生や高齢者など約70人が参加しました。

この食堂は、両親の帰宅が共働きなどで遅く、外で遊んでいた子どもや一人暮らしの高齢者に呼びかけ、同寺の檀信徒の女性の会「サーラの会」や地域の民生委員、保護司などの有志で平成28年10月に発足しました。

この日は、主任児童委員（民生委員児童委員）12人による布芝居やよし笛演奏が披露された後、大なべで煮込んだ「どろ」と呼ばれる地域の伝承料理（粉米や野菜、牛肉のすじ肉を煮込んだ「おじや」のようなもの）やデザートなどがふるまわれ、子どもたちは地域の「ばあちゃん」たちが心をこめて作った料理を味わっていました。



Facebook
ページは
こちら



赤こんりポート

東恵子リポーター



ともに寄り添ってバス遠足

びわ湖八幡ロータリークラブが12月14日、近江八幡市余暇支援クラブ「はちの子」の子どもたちをバス遠足に招待。リニア・鉄道館や名古屋港水族館で冬の1日を温かく過ごしました。

近江兄弟社高校インターアクトクラブのメンバーも参加しており、「将来、福祉に携わる人材が育てばうれしい」と期待していました。

はちの子スタッフ2年目の首藤葉月さんは大学3年生。「きょうだいが自閉症で、身近な存在。はちの子の子どもたちがかわいい。将来は障害児支援の現場で働きたい」と話していました。



近江八幡市公式
Instagram



「#走れ赤こんくん」に投稿を

市内で撮ったとおきの写真に、ハッシュタグ「#走れ赤こんくん」を付けてつながりましょう！投稿いただいた写真は広報紙面などで紹介させていただきます。



@nakachan22さんの作品

1月12日



市内各地で左義長行われる

江頭町・十王町では100人余りの子どもたちが左義長の山車（だし）をかついで「サギヤレ、チョウヤレ」の掛け声を上げながら勇壮に町内を練り歩き、学業成就や五穀豊穰を願いました。稲わらや杉の葉などで制作した左義長山車には、赤紙や干支のネズミ、サイコロなどの飾りが付けられていました。

沖島の佐儀長は、「サンチョウ」と呼ばれる巨大な作り物を制作して燃やします。沖島では島で生まれ育った数え年17歳の少年が「ゲンブク」と呼ばれる大人の仲間入りをするというのも合わせ持っています。今年は17歳の少年がいないので宮世話の人たちがサンチョウに火をつけ、島民や島に帰省した人たちが見守っていました。

赤こんりポート

馬場利男リポーター



人形劇や実演で楽しく防犯を学ぶ

近江八幡・竜王少年補導委員会啓発部会で平成14年から実施している『くまのこけんちゃん』の人形劇を、今年度も近江八幡市・竜王町内の保育園・幼稚園・こども園などで実施されています。12月3日は市内のメリー保育園で、保育園児など91人が鑑賞しました。人形劇の後、実際に不審者に扮した少年補導委員が子どもに声をかけ、110番の家に駆け込む実演指導も行われました。近年子どもが犯罪に巻き込まれる事件が多く、大人の勝手な行動から犠牲になっていることが多い世の中で、少しでも犯罪のない世の中になってほしいと思います。